



2月に入り、巷(ちまた)では入学試験の季節です。本校も、高等部入学者選抜検査や、就職採用試験など、ピリピリ緊張の季節です。

試験のときにいつも思うのは、合格(採用)になることだけが人生にとってのベストではないということです。もちろん、合格になってほしいのですが、ただ、合格すればよいのではなく、10年後、20年後にも「あの時、頑張ったなあ」「合格してよかったなあ」と思えることがベストなのではないかと思っています。

高等部3年生の生徒たちは、卒業後の生活へ向けて、最後の頑張りの時期を迎えています。10年後、20年後にも笑顔でいられるように、今を応援していきたいと思います。

高等部「先輩の話を聞く会」開催

1月25日(木)、高等部では「先輩の話を聞く会」が開催されました。毎年、卒業した先輩に、仕事のことや生活のことなどを話してもらっています。

今年度は、青森市にある「生活協同組合コープあおもり 物流サポートセンター」から、赤石裕斗先輩とセンター長の高坂 大さんに講師をお願いしました。生徒たちからの質問と、赤石さんの回答の一部をご紹介します。



Q「仕事で気を付けていることは何ですか？」

A「失敗したり、乱暴に扱ったりしないようにすること。仕事中は仕事に関する以外に話さないこと。洗浄の作業では、決められた時間までにその仕事を終わらせることです。」



Q「仕事で失敗したとき、どうしたらいいですか？」

A「すぐに報告し、何の仕事をしているときに、どんなことで失敗したのか、具体的に状況を伝えます。そして、次に同じような失敗をしないように、改善をするようにしています。」

Q「最初に仕事を覚えるときに、気を付けたことはありますか？」

A「しっかり説明を聞き、教えてもらったとおりに作業するようにしました。それでも分からなかったり、忘れてきたときは、勝手に判断せずに、もう一度聞いて覚えるようにしました。」



Q「休憩時間はどれくらいありますか？何をしてお過ごししていますか？」

A「午前と午後に5分の休憩(休息)と、昼に60分の休憩があります。5分休憩のときには、トイレへ行ったり、水分を摂ったりしています。昼休みは、ご飯を食べた後、仮眠を取っています。」

Q「どうして仮眠を取っているのですか？」

A「午後の作業も集中して、しっかりと働くためです。寝過ぎないように、アラームをセットしています。」

Q「お給料はどれくらいもらっていますか？また何に使っていますか？」

A「月に10万円くらい（交通費等含む）です。グループホームの家賃や電気、水道代、バスの定期券を買っています。また、親にもあげています。」



Q「どうしてお家の人にもお金をあげようと思ったのですか？」

A「森田養護学校に通っている間の12年間、毎日車で送ってもらいました。ご飯も食べさせてもらい、健康に成長することができたので、感謝の気持ちであげています。」



Q「グループホームでは何をしていますか？」

A「ご飯を食べたり、風呂に入ったり、洗濯をしたりしています。自分の部屋に戻ったら、洗濯を干したり、掃除をしたり、明日の仕事の準備をしたりしています。次の日の仕事に影響しないように、夜9時過ぎには寝るようにしています。」

Q「グループホームでゲームなんかはしないのですか？」

A「仕事が終わった後、バスの時間まで50分ほどあるので、その時間にゲームをしていて、グループホームではほとんどしません。」

Q「就職するために、学校でやるべきことや勉強したことを教えてください。」

A「自分がその仕事に向いているか、しっかり考えることや、作業学習などの勉強の中で、仕事に必要なスキルを身に付けることが大切です。僕は、喫茶「それいゆ」で、態度や言葉使い、仕事の効率性や正確性なども勉強できたと思うので、やってよかったなと思っています。」

Q「学校で身に付けておいた方がよいことは何ですか？」

A「挨拶、返事、報告、相談を自分からできること。身だしなみや、毎日休まずに仕事ができる体力、言葉使いだと思います。これらは、働く上で最低限必要だなと感じるので、皆さんも是非身に付けてください。」



Q「カッコいい大人になるためにはどうしたらいいですか？」

A「決まったことをしっかりとやる、頼まれたら途中で投げ出さずに、最後までやる、自分から積極的に何にでも取り組むことがカッコいい大人になることだと思います。」

卒業して約10か月。毎日休まずに通勤し、「うちの大事な戦力です」と言ってもらえるようになった赤石さん。後輩たちへの回答にも社会人としての自覚や責任をもって日々過ごしていることを感じました。



森田養護学校同窓会



1月号で障害者権利条約に触れましたが、条約の中では、障害者の「生涯学習」を保証するということが挙げられています。

文部科学省によると、生涯学習とは、生涯に行うあらゆる学習のことです。「学習をする」最大の機会は、学校教育ですが、学校を卒業した後も、社会教育、スポーツや趣味など身近で学ぶことのできる機会はたくさんあります。

みなさんは、どんな「生涯学習」に興味がありますか？ダンスやスイミングなど、身体を動かすことが好き！という方もいるでしょう。パソコンや物作り、料理が好きという方もいるのではないのでしょうか？生涯学習は、学びたいことを学ぶ、やりたいことをやるというものです。休日にスポーツや趣味を楽しみ、自分の人生を豊かにしていくことができるよう、「自分はこんな学びがしたい」と希望を伝えていく必要があります。本校では、生涯学習の一つの場として、また卒業生の交流の場として、同窓会及び障害者青年学級を、年3回（7月、9月、11月）実施しています。

今年度の活動の様子を少しだけご紹介します。

7月の同窓会では、金魚ねぶた制作をしました。



9月は、つがる地球村でレクリエーションと会食でした。この日は、送迎バスも出たので、一人で参加する卒業生もいました。レクリエーションはボールリレーとサイコロトークでした。吉村先生のMCで、みんな大盛り上がりでした。



11月は、森養祭の見学です。今年度は、高等部の販売学習に参加し、後輩たちの頑張っている様子を見て、製品も買ってくれました。



その後、音楽室で一年間の活動の振り返りや、来年度の活動の希望をアンケート用紙に書いてもらいました。卒業生のみなさんは、やりたいことや行きたいところを、いくつも書いてくれました。



また、同日に20歳のお祝いも行われ、みんなでお祝いをしました。これからの抱負を話す姿に卒業生たちの成長を感じました。



卒業生のみなさんが、明るく元気に過ごしている姿は、後輩である本校児童生徒のお手本です。これからも、仕事や生活を充実させて、頑張してほしいと思います。

2月8日(木)には、高等部3学年を対象として、同窓会の説明会が行われました。同窓会への入会も、参加も任意ですが、学校を卒業後の学びの場の一つとして捉え、同窓会・青年学級への参加を検討してほしいなと思っています。

ひまわり通りには、同窓会の活動の様子や会報「レッツ エンジョイ」が掲示されています。時間のある時に、是非ご覧ください。



高等部進路講話



2月8日(木)、ジョブカフェあおもりのキャリアカウンセラー 一戸亜依さんを講師にお招きし、高等部3年生を対象とした進路講話「働く上で大切なこと」が行われました。

一戸さんは、働く上で大切なこととして、「マナーとは何かを知っておきましょう」「働くときは必ず、報告・連絡・相談をしましょう」の二つをあげ、具体的にお話してくださいました。

3年生は、2月に入ってから移行支援会議に参加しているため、少しずつ「卒業後の生活」を意識し始めているようです。そのため、一戸さんからの話は、とても身近な内容で、生徒たちは熱心にお話を聞いていました。今回は、進路講話の内容を一部ご紹介したいと思います。

1. 身だしなみについて

学校を卒業したので、「何でも自由!」というわけにはいきません。職場のルールを守り、周りの人たちが不快に感じない身だしなみを心がけることが大切です。

お年頃のみなさんは、「汗のにおい」のケアも忘れずに行いましょう。



2. ホウ・レン・ソウについて

働くとき、給料をもらいますが、それには責任が伴います。つまり、きちんと仕事をするということ、分からないことがあったらすぐに聞く、すぐに報告する、働く場のルールに従うことが大切です。中でも、失敗をしてしまったときや分からないときの「ホウ・レン・ソウ」はとても大切です。

ほう かく・・・悪いことほど、急いで知らせる!
れん らく・・・いつ・誰に知らせるか考えて
そう だん・・・できるだけ早いうちに!



「やってみよう」

「ホウ・レン・ソウ」は、言いにくいことが多いのですが、できるだけ早く(悪いことほど急いで!)行うようにしましょう。

3. マナーについて

マナーとは、みんなが気持ちよく過ごすための、ちょっとした知恵や思いやりのことです。中でも、身だしなみを整えることや、挨拶を元気よく心を込めて行うことが大切です。

挨拶も社会人としての基本的なマナーです。相手により印象を与える挨拶とは・・・

あ・・・あかるく、あいてを見て
い・・・いつでも元気よく
さ・・・さきに
つ・・・つづけて一言

「やってみよう!」

相手に声を掛けられてからの挨拶より、自分から、いつでも元気に、明るく挨拶ができるといいですね。

「〇〇さん、おはようございます。」「おはようございます。いいお天気ですね。」など、挨拶にプラス一言があると、よりよい挨拶になるそうです。

語先後礼(ごせんで礼;「語」は言葉=あいさつ)のことで、礼は「お辞儀」のことです。つまり、「言葉を先にお辞儀は後で」という意味)を意識しましょう。



シリーズ「働く」



久しぶりのシリーズ「働く」です。3番目の登場となるのは、小学部の片山泰志先生です。

本校で勤務してもうすぐ7年、そして教員として働いてずっと高等部所属でしたが、今年度初めて小学部の児童と勉強することになり、慣れない授業の連続に、毎日が新鮮で、試行錯誤の日々を送っています。生まれがつかがる市(旧木造町)の私にとって、森田養護学校は地元の学校であり、身近な存在でした。そんな職場で働いていることに幸せを感じ、感謝しながら過ごしています。

さて、今回このテーマで書くことが決まり、私はいつ頃「働く」ということを考え、意識したのか、遠い記憶も含め書いてみようと思います。

振り返ってみると学生時代は部活動に没頭し、将来、自分が働いているイメージをあまりもっていなかったことに気づきました。「生活するためには働かなければいけない」というのは両親を見て自然と幼いころから頭の片隅にはありましたが正直「そのうち決めよう」「〇〇やってみたいな」としか思っていませんでした。「〇〇やってみたい」と「働く」がつながり、真剣に考え始めたのは大学4年生になってからだったと思います。この頃になると、地元の仲間と話していると「働く」ことについての話題が増えていました。社会人としてもう活躍している仲間たちの話す内容は、当時の私にはとても刺激になりましたし、同時に焦りにも似た感情をもったことを思い出します。そして、働き始めた当時、私の「働く」は【収入を得て生活し、自立するため】としか思っていなく、第一に「生きていくにはどうしたらいいか」を考える日々でした。

現在、実際に働き、ある程度の経験をさせてもらい、児童・生徒に進路について指導することもある私の「働く」とは

- ①収入を得て生活するため・自立するため
- ②やりたいこと・趣味を楽しみたい
- ③社会に貢献したい
- ④人と関わり、つながりを楽しみたい
- ⑤働くことで色々な経験を積みたい
- ⑥仕事をする事自体が楽しい



まわりの友人と比べ、「働く」ことを意識するのが遅かった私ですが、年月と共に目標や課題をクリアしてきました。できなくて苦労したこともたくさんあります。最初からできなくても、スタートが遅くても、自分の心掛けや、まわりの人たちの支えがあって働き続けることができています。こうして書いてみると「働く」ことについて、6つも自身の中にあっただことにビックリしています。遅いなんてことはないですね。

森田養護学校の子供たちも社会に出る日がやってきます。まだ、まだ、と思ってもあっという間にその日がくるでしょう。子供たちは、日々学校で勉強し、実習等で「働く」体験を重ね、将来についてイメージしていくこととなります。在学中に一つでも自分の課題を知り、改善できるにはどうすればいいのか考え、実行してください。そして良い所を伸ばし、それを表現できるようになりましょう。実行するのは自分自身です。高学年から・・・中学部から・・・高等部から・・・明日からでもいいと思います。思い立ったら即実行!!時間がかかっても、一つ一つクリアして、「働く」大切さや楽しさを実感してほしいと思います。





シリーズ「働く」



あれ？ 前のページもシリーズ「働く」だったけど……。けっして印刷ミス……ではありません。シリーズ「働く」の最後は、中学部の吉村弘道先生です。

私が働き始めたのは、昭和63年4月です。八戸です。

実家を離れるのも初めてで、一人で生活するのも初めてでした。

料理をするのも、掃除をするのも、洗濯をするのも、買い物をするのも何もかも初めてでした。

つまり、「仕事をする」のも「生活する」のも初めてでした。何が何だか分からないまま月日が過ぎていきました。



職場には、よい先輩も悪い先輩(長い目で見ればよい先輩でした 笑)もいました。

よいことも、悪いことも(長い目で見ればよいことでした 笑)教えてもらいました。

自由の楽しさと恐ろしさも学びました。

一人での新しい生活では、いろいろなことを自分で判断し決断しなければいけません。今日は何を食べようかなどほんの些細なことでも。

そんな中で私が一番困ったことは、料理でも、掃除でも、洗濯でもなく「お金の計画的な使い方」でした。色々ありながら5年くらいかけてやっと覚えました。詳しくは書きませんが、電話(当時は固定電話です)が通じなくなりました。電気がつかなくなりました。蛇口をひねってもなぜか水が出てなくなりました。一つ一つほんとに驚きました。電気がつかなくてもいいやと思ったのですが、冷蔵庫も使えないということに気付き、水はしばらくミネラルウォーターでもいいやと思ったのですが、トイレの水を流すことができないことに気付き、と言う具合でした。



森田養護学校に赴任(2度目の)してきたとき、高等部の授業で「卒業後の生活」というテーマで、収入がいくらで、家賃がいくら、光熱費がいくら、食費は、交際費は、貯金は、と自分で考え、みんなで検討する授業があり、自分もこんな授業を受けたかったなとしみじみ思いました。

それぞれに必要な力を、今できることから、日々の生活、学習場面で幸せを感じながら、将来の幸せな人生のために学んでいってほしいと思います。

